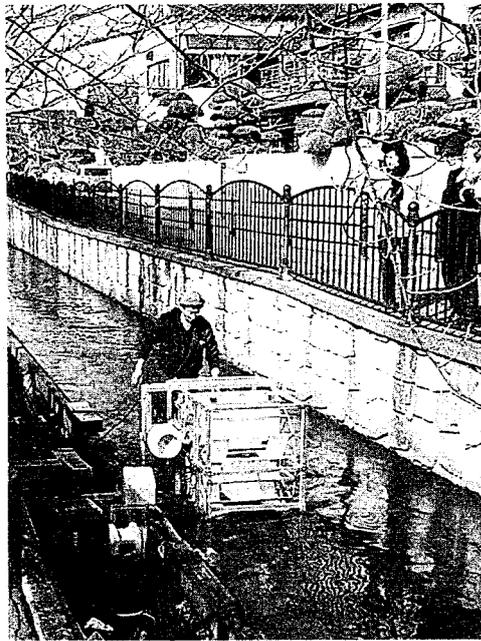


水都大阪 電気で元気に

マイクロ水力発電「考える会」



今年1月、中小企業サポート隊が八尾市の長瀬川で実施したマイクロ水力発電の実証実験(同隊提供)

小川や用水路の水流で水車を回し、発電するマイクロ水力発電の活用方法を探ろうと、大阪府内の中小企業など10社・団体が「なにわのマイクロ水力発電

を考える会」を結成した。わずかな発電量だが、「水の都」大阪に合った発電方式や電力の用途を来年春にまとめる予定だ。

マイクロ水力発電は一般的に

出力が100キロワット以下と定義され、環境省の試算で、全国で計30万キロワットを発電できる可能性がある」とされる。大阪は水が豊富だが、平野が多く、流れが緩やか。「発電量が小さく採算が合わない」などと、ビジネス化をためらう中小企業が少なくなかった。

元企業経営者やメーカーOBでつくる同府八尾市のNPO「中小企業サポート隊」が今年1月、府内の川や用水路で、水車を使ってマイクロ水力発電の実験を実施。街路灯などに利用できる10〜21ワットの電力が発電できることを確認した。問い合わせが相次ぎ、サポート隊の浜田典弥⁸⁰理事長が「技術や経験を持ち寄り、『水の都』にふさわしい発電を考えよう」と呼びかけた。

先月29日に大阪市内で初会合を開き、機械加工会社や環境団体などが参加。互いの実験施設を訪問し合うことなどが決まった。

同会メンバーで携帯型マイクロ水力発電機を研究する青木豊明・関西外国語大教授(環境科学)は「発電量が小さくても、携帯電話の充電や、防犯灯などの用途が考えられる」と期待する。問い合わせはサポート隊(072・991・6811)。

【吉田卓矢】